

平成29年 **9** 月の大阪森林便り



今月の木の話

人の心拍と木の年輪に共通する $1/f$ のゆらぎ

- ・自然界にはさまざまな「ゆらぎの現象が存在し、「 $1/f$ のゆらぎ」が普遍的に存在するといわれています。
- ・人間の心拍の間隔は一定のように思われますが、実際には10%くらいの幅で心拍間隔が長くなったり短くなったりしていて、 $1/f$ 型（スペクトルの値が周波数の逆数に比例）ということがわかりました。
- ・人の心拍のゆらぎと木の年輪の間隔ゆらぎとはよく似ています。
- ・長期的な気温の変動で木の年輪の間隔（年輪の線間隔と同じ）も $1/f$ を持っています。
- ・長い時間のスケールでみた地球上の気温変動も $1/f$ のゆらぎをしていることがわかりました。
- ・人間の脳波のゆらぎも、精神的に安定な状態にあるときは $1/f$ の型をとっています。
- ・ほとんどすべての音楽作品の周波数のゆらぎも、 $1/f$ のスペクトルを持っています。
- ・ $1/f$ のゆらぎを持つものは、人に自然らしいとか快いとかのイメージを与えています。
- ・木材は素材として優れた材ですが、生き物である木材の持つ $1/f$ のゆらぎ、その表面に自然に描かれた木目パターンと色が好まれているようです。
(日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)



輸入合板 値上がり 国内卸値、在庫は低水準

- ・型枠や内装に使う輸入合板の国内卸価格が上昇。主産地マレーシアの伐採増税や環境規制で日本向け南洋材合板が値上がり。国内在庫は低水準で、卸値はさらに上がるとの見方が強くなっています。建設コストを押し上げそうです。
 - ・型枠用合板が前月比で2%上がりました。構造用合板も2%高くなっています。
 - ・南洋材合板の対日価格は、6月積みから上昇基調を強めました。
 - ・インドネシア産合板の対日価格も代替需要で6月から3か月連続で上がりました。現地の合板企業は10月積みの対日価格を引き上げる意向です。
- (2017年8月1日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

南洋材丸太が上昇 国内卸値、1年2か月ぶり

- ・南洋材丸太の国内卸価格が約1年2か月ぶりに上昇。主産地マレーシア・サラワク州で環境保護を目的に7月から伐採増税や輸出枠の削減を実施した影響。前月比1%高。
 - ・サラワク州では、原木丸太の輸出枠を従来の伐採量全体の3割から2割に減らしました。
 - ・産地では採算悪化を理由に、6～7月の2か月間で原木の対日輸出価格は7%上昇。
 - ・マレーシア産丸太の6月の輸入量は、前年同月比66%減少。
- (2017年8月4日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

北米産丸太の価格上昇 対日6か月ぶり カナダ山火事影響

- ・北米産丸太の日本向け輸出価格が6か月ぶりに上昇。8月積み輸出価格は7月成約価格に比べ1.2%上がりました。
 - ・大規模な山火事が発生。カナダ産製材工場の一部が操業停止に追い込まれ、米国産丸太や製材品の国内価格が急伸。
- (2017年8月8日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



輸入合板、全品種値上げ 国内卸値 南洋材の上昇分転嫁

- ・輸入合板の国内卸価格が全品種で上がりました。南洋材合板の日本向け輸出価格の上昇分を、商社や建材問屋が転嫁しました。在庫は低水準。対日価格は9月以降も引き上げ。
- ・コンクリート型枠用合板(厚さ12mm)が7月下旬に比べ1%上がりました。構造用合板(12mm)も1.5%高くなりました。厚さ2.3mmは7月に比べ11%高、5.5mmも7%高くなっています。
- ・マレーシア東部のサラワク州産型枠合板の9月積み対日輸出価格は、8月積み成約価格に比べ5%高くなっています。対日価格の上昇は4か月連続になります。

(2017年8月15日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

輸入普通合板 卸値が一段高 南洋材の上昇映す

- ・輸入普通合板の国内卸価格が一段と上昇。南洋材合板の日本向け輸出価格の上昇を受け、商社や建材問屋が価格を転嫁。
- ・マレーシア産合板の6月輸入量は、前年同月に比べて22%少なくなっています。
- ・同国産合板の対日輸出価格は、6月積みから9月積みの4か月間で約18%上昇。

(2017年8月26日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

国産針葉樹合板 在庫6.2%減少 7月末

- ・7月末の国産針葉樹合板の在庫は、前年同月に比べて6.2%少ない102,799m³。
- ・公共施設向けなどの堅調な出荷を反映。前月比でも0.4%減りました。
- ・出荷量は前年同月比4.8%増の262,171m³。

(2017年8月29日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

